

令和5年度第3回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会（会議録）

開催日時	令和5年11月27日（月） 午後3時～4時40分
開催場所	四條畷市役所 東別館3階 302会議室
出席者	平井委員長、上村委員、猪飼委員、松川委員、上田委員、北田委員、 小泉委員、成見委員 (事務局) 市民生活部地域振興課
欠席者	奥村委員、野島委員
傍聴者	なし
次第	1 四條畷市産業振興ビジョンの見直しに対する提言について（報告） 2 四條畷市産業振興ビジョン（原案）について 3 その他

(平井委員長)

出席委員数及び会議が成立する旨の報告。

会議の公開の決定。

会議録の公表の決定。

傍聴者に関する報告。

1 四條畷市産業振興ビジョンの見直しに対する提言について（報告）

(事務局)

第2回四條畷市産業振興ビジョン推進協議会の議論を経て、市あてに提出した提言書について報告。

(平井委員長)

この件について、意見等はあるか。

(全員)

なし。

2 四條畷市産業振興ビジョン（原案）について

(事務局)

四條畷市産業振興ビジョン（原案）について、資料に基づき説明。

(平井委員長)

今後パブリックコメントを行い、産業振興ビジョンとして改訂されると、来年度以降、これを元に様々な施策が行われていくことになる。

この件について、ご質問・ご意見はあるか。

(上田委員)

4産業から3産業になったところではあるが、歴史的資源等の観光の観点はシティプロモーション以外にどこかに残っているのか。

(事務局)

シティプロモーション以外には魅力発信という観点を入れている。今までは観光担当課が観光施策を行っていたが、今後はシティプロモーションや魅力発信という観点から各分野において発信を行うことで、より魅力発信が可能になるほか、様々な分野との連携が可能になるのではということをして市全体として考えている。

産業については、歴史的資源を中心に、それらを活用し、商業・工業・農業が推進していくということをビジョンの原案に盛り込んでいる。

(上田委員)

歴史的な魅力を発信するような文言がどこかになくていいのか。

(事務局)

四條畷市は特に歴史的遺産が豊富であり、今後更に発信していくため、文化財課という部署を機構改革により設置する予定であり、歴史的遺産等については特化して発信していく。

特に飯盛城跡については、保存活用計画を教育委員会が中心となり策定を進めているところであるため、保存活用計画をもとに検討されていくものと考えている。

(平井委員長)

歴史的遺産により、来街者が増えることが期待できる。当然、それ以外にも産業振興に活かすものがあるのも良い。

(松川委員)

2ページのKPIの状況にも観光が記載されているが、この点についてはどのようなお考えか。

(事務局)

現ビジョンは観光を含めた4産業を設定していることから、実績としては観光も含めた数値を記載している。

(松川委員)

令和9年度までの目標値が残っているが、問題ないのか。

(事務局)

産業振興ビジョンが10年間を見越した計画となっているが、上半期に新型コロナウイルス感染症という大きな社会情勢の変化があり、見直しの必要性がある旨を1ページに「見直しに至る背景」として記載している。ご指摘の箇所については、見直しにあたって前半期の実績を振り返る必要があることから、現ビジョンに設定している観光を含めた4産業のKPIの実績値を整理し、当初の計画終期の最終目標値である令和9年度のKPIについても併せて記載を行っているものである。

なお、見直しにあたって、四條畷の現状を踏まえた議論を行ったところ、前回の会議で観光については産業の枠組みではなく、市の主要施策として取り組んでいるシティプロモーションの観点から魅力発信をしていくこととなったため、残る3産業(商業・工業・農業)については、それぞれの魅力を発信していくという整理を今回行ったところである。

(平井委員長)

これまでの実績がどうであったかというような記載方法の方が、分かりやすさはあ

るかもしれない。

(事務局)

表において、当初の最終目標値として記載しているが、わかりにくさがあるかもしれない。

(平井委員長)

当初の策定時はそのように構成していたので、記載すること自体は間違いないが、この数値を念頭に読み進めると、第6章の「産業振興の推進に向けた基本戦略」のタイミングで初めてこの数値が記載されていないことが分かる状況。

(事務局)

委員の中からもそのような質問が出てくるということは、審議に関わっていない市民も同様に疑問を持たれる可能性があるので、補足は必要であるように思う。

表を端的に説明する注釈の追記は検討させていただく。

(平井委員長)

順番としてこの実績があり、見直しという議論となった。一方で、繰り返しになるが、取り組みとしてやめる、またはやらなくて良いということではなく、シティブロモーションという重要な視点はもとより、産業を振興するという視点で目標を達成しなくてはならない。その点が分かるようにすべきと感じる。

観光の観点をどう活かすのかということは、今後議論していかなければいけないと思うが、魅力発信でどう影響される、または逆にこうしてもらえれば良いというようなことはあるか。

(上田委員)

やはり人の課題が大きい。イベントひとつするにしても人が必要になるが、どうしても足りない。

(平井委員長)

いわゆる農業観光ではないが、観光の視点からの発信が誘発して、ビジネスにもプラスになるということもある。

やはり人が来ることで、商業や農業などの産業振興につながる。ガイド活動をされるなかで、このように人を呼ぶべきという意見や、案内される方がどのようなものを求めているといったことは把握されているか。

(成見委員)

午前中のみガイド時は、昼食に関する質問を受けることがあるので、そういう情報の発信は必要ではないか。

(平井委員長)

例えばそれが駅前の商店街の店舗であれば、まさに産業振興に直結する。

(成見委員)

紹介できるマップ等があれば良いと感じている。案内するコースによって午前中だけで終わるコースと1日のコースがあるが、件数としては1日のコースの方が多い印象。

(平井委員長)

参加されるのはどのような世代が多いのか。

(成見委員)

高齢の方が比較的多い印象。

(平井委員長)

そうなりとやはりマップは紙の方が使いやすいかもしれない。

逆に私の学生は全部ネットで調べてしまうところがあるが、地元の人しか知らない魅力を紹介することにも価値があるように思う。

小泉委員は、観光戦略や地域活性化に携わられていると思うが、その視点からのご意見はあるか。

(小泉委員)

大阪府では2年後に迫った大阪・関西万博に向け、イベントや広報・PR活動を行っているところ。その際、会場は大阪市の夢洲ではあるが、府域全体に経済効果や人の流れが向かうようにということを常に我々は意識している。

キーワードとして、府域周遊を非常に重要視しており、例えば歴史的資源はインバウンド向けにも訴求効果があるとされているので、それを盛り立て、鉄道が通っているところであれば鉄道会社とも連携してPRしていく。四條畷市にもJRが通っているため、例えば飯盛城跡であれば、何らかのPR素材として活用できるのでは。また、単独でなく、他市と連携した周遊プランなどをコンテンツとして提案していただければ、一緒に取り組むことも可能なのではないかと。

また、飯盛城跡であれば、高槻市の芥川城跡ともつながりがあるので、何か一緒にハイキングするなど、今マイクロツーリズムと言われるなかで、1時間程度で行ける範囲でパッケージ化する、どこかと連携した広域での取り組みも良いのではないかと感じた。

(平井委員長)

コロナ禍のなかで出てきた言葉としてマイクロツーリズムがあり、遠くから来る人ばかりを呼ぶというばかりでなく、地元の人が魅力を再発見するというような部分も大事。魅力発信は産業振興そのものに関わってくると考えている。

私のゼミで姫路での土産開発の取り組みを行っているが、姫路城前で外国人を対象に調査をしたところ、世界遺産の姫路城ですらお土産を買わないという結果が出ている。午前中に見学し、午後からは大阪や京都に出でしまっている。大阪から見るとそれは良いことかもしれないが、姫路側としては困ってしまう。世界遺産があってもそのような難しい状況。それを地元の産業にプラスになるようにするには、何らかの仕掛けがやはり重要。

人が増えるということと商業振興との関わりについてご意見はどうか。

(松川委員)

お土産に関しては、和菓子屋などは地元のを活かした商品等を販売しており、そういう意味では上手にやっているところはあるとは思っている。

マップについては、以前大阪商業大学の学生と連携して作成したが、紙ベースで作ると逆になかなか更新できないので、そういうものをネット配信できるようなシステムがあれば面白い。実際、商店街によってはバーチャル商店街というような配信を行っているところもある。それを四條畷の商店街としてやるのか、それとも市と

して商業の発展のためにやるのかということもあるが、そういう取り組みが進むと面白いと思う。

「介助犬のひろば」という障がい者のためのマップについては、関係者が学生とも連携し、定期的に更新をかけているが、更新の頻度に課題はあるように聞いている。万博に絡めて国内外から大阪に来られるので、大阪市内だけでなく四條畷にも来ていただけるとありがたい。

(小泉委員)

デスティネーションキャンペーンという JR 6 社と地方自治体が連携して行う日本最大規模の観光 PR イベントがあり、1つの季節×4年を1ターンとしてプロモーションを行っている。

大阪・関西万博の2025年の春期を大阪府が実施することになり、また2024年春期をプレキャンペーン、2026年にはアフターキャンペーンとして大阪府が取り組んでいく。四條畷市のように JR が通っているのは万博期間中に人を呼ぶという意味ではポジティブな要素である。JR の駅があり、そこから徒歩であったり、遠くない圏内に何かコンテンツがあるというのは、アクセスの点で有利な条件の街ではないか。

(成見委員)

京阪沿線の守口市や門真市の方からは「四條畷には山があって良いね」というような声を聞いており、過去にその方は自転車で来市され、飯盛山に登られたといったこともあった。

(小泉委員)

福岡・大分デスティネーションのプレキャンペーンが今年の春にあり、旅行会社のエージェント等が数百人規模集まる販売促進会議が行われた。そこでは、観光素材のプレゼンテーションも行われ、そのうちのひとつで自転車のツーリズムを取り上げていた。

見えていないだけで、素材としては色々と眠っているのではないか。

(平井委員長)

よく歴史的なゆかりのある所を自転車で巡るという企画もあるが、そういった資源を把握したうえで、どのように産業につなげていくかという視点が非常に重要である。

近年は、自分たちで調べてどこからでも来られるという傾向があり、魅力あるロケーションさえあれば人は集まってくる。

(猪飼委員)

課題のなかでも記載があるが、人材の確保が重要であり、近年廃業される方の相談も増えてきている状況。事業承継などそういったところも必要になっているので、課題にも記載されたのかと受け止めている。その点について、どのように実行していくのかについては、私自身も課題として認識している。

(平井委員長)

事業承継の課題は、ここ数年で深刻化している印象か。

(猪飼委員)

長年事業をされてる代表者の年齢も上がり、今後どうしたら良いのかという相談もある。

一方で、副業で土・日曜日であれば活躍できるというようなケースもあると思われるが、今はまだ進んでいない印象。10年程先を目標に、四條畷市でできる取り組みも必要なのでは。その点は、シティプロモーションで住みやすさや興味関心を持ってもらうというところにつなげられるのでは。

(上村委員)

コロナ禍の3、4年の間にこれまで経営を頑張ってきたところが廃業されるということがあったが、その技術力は後に継承することができない。大阪は中小企業のまちなので、そのまま消えてしまうのは非常に残念。

それは中小企業だけでなく、小規模事業者、商店も同じで、商店街からお店がなくなっていくというようなところにも通じるものがあるのではないかと。

商店街にも良い店が多くあるが、名前が通っているところに負けてしまっているのが残念に思う。

先ほど守口市や門真市から自転車で行かれるというお話があったが、サイクリングロードがなく、道路のところで課題がある。そういう危険なところがクリアできれば、緑も多い四條畷に来ていただけるのではないかと。

大阪・関西万博については、せっかくの機会なので、産業が盛り上がる方に活かすことができればと思う。

(平井委員長)

先ほどご紹介のあったアフター万博という考え方が重要であると感じた。一過性のイベントではあるが、そこからどうつなげていくか。そこで四條畷のことを知ってもらい、こういう店や会社があるというようなことをどうつなげていくかが今後課題になるのであろう。

(上村委員)

私は工業分野だが、市内では圧倒的に数が少ないというのが残念である。

今年もオープンファクトリーをされている地域が府内にはあるが、四條畷ですとなると、やはり数が少ないということが課題となる。

(平井委員長)

近隣に東大阪市や八尾市があるということもあるが、同じようやるのはなかなか難しい。この規模だからこそという前提で考えていかなければならない。逆に小ささを売りにはできないか。

(上村委員)

おっしゃる通り、数は少ないが、四條畷市は魅力ある街であると感じている。決して住みにくい街ではなく、住みやすい街である。

(平井委員長)

環境が良く四條畷市を選ばれる方は多くおられるのではないかと。その方々が地域とつながったときに、人材のところでもプラスに向くのではないかと。

また、事業承継については、担い手をどう集めてつなげるかという観点から、今後議論されていくのでは。

小さいことは売りのひとつになると考えており、中小企業もスモールイズビューティフルと言われ、大きいところにはない魅力がある。

(北田委員)

テレビを見ていると、地元の情報でも私たちの知らない情報がある。

やはり事細かに吸い上げて、広報や Instagram といった SNS などで情報発信をしていくというのが一番大切なのでは。

高齢者はスマートフォンをあまり触らない人も多いが、逆に若い世代は SNS で知った色々なところを訪れているということもよく聞く。

(平井委員長)

例えば Instagram で見た画像目当てで色々なところを訪れている。それがたまたま四條畷ということもあり得るので、魅力の発信を通じて、ビジネスにもプラスになることが望ましい。

(北田委員)

先日、市内にある谷口智則さん制作のサンタクロースを写真に撮って巡っている人を見かけた。市内に設置されているのは 20 体程度か。

(事務局)

現在 80 体以上設置されている。

(北田委員)

市内に住んでいてもこのように知らないことはあるので、魅力の発信を通して広がっていくのではないかと感じた。

(成見委員)

以前は市内のスポットの写真を撮りながら制限時間内に回るというようなイベントもあった。

(松川委員)

その当時は、今回は四條畷市だが、北河内全域をエリアとしてやりたいというような話も聞いた。

(成見委員)

市内約 50 か所のスポットを回り、写真を撮って、制限時間内に戻ってくるといったイベント。このスポットは何点というような設定されており、その合計点で競っていた。

(松川委員)

コロナ前に実施していたイベントで、商店街で商品を購入し、一緒に写真を撮るとプラスで配点があるといったこともあった。続編の声もあったが、コロナで止まった状況。

当時は一番遠いところでは、北海道から来られていたのではないかな。

(平井委員長)

街を回遊するという発想で考えると、逆に市域が四條畷市くらいの広さが動きやすいということはある。

今後そのような仕掛けをしていくとなると、商業や地域の人材確保が重要となるが、その視点でご意見はあるか。

(松川委員)

自分では難しいところがあるので、そのような取り組みを行っている団体にご協力いただかなければならない。人材や情報をどれだけ持って来られるかが重要。イベントを開催するというスタートまで持っていくのが非常に大変である。商店主の高齢化もあり、若い世代にお願いしたいという声もあるが、若い世代は自分の仕事に一生懸命なので、そこまでは回らないといった状況。

(平井委員長)

何か背中を押せるようなものがあれば良いが。

(松川委員)

外部の力をうまく利用でき、それが軌道に乗れば自分たちでもうまくできるようになるとは感じている。

(猪飼委員)

守口市では、守口さんぼという社会実験イベントをされているが、コンサルタント会社が関わっていると聞いている。

守口市や門真市では、社会実験の要素があるイベントに取り組んでおり、協議体のような組織が主となり、市が中心ではあるが、地元の商店や金融関係などを巻き込み実施している。実施に当たっては協議体のなかで、役割分担をされているようである。

(平井委員長)

外部の仕掛け人の存在もあるが、実際動かしていくのは市にお住まいの方になるので、その力をうまくつなぎ合わせているような印象。

産業振興ビジョンのなかで共通して出てくるキーワードが人材である。先ほど商工業の議論もあったが、農業においても担い手の問題があるのではないか。

(上田委員)

昨日農業まつりが開催されたが、コロナ禍で規模縮小等もあり、やはり戻っていくのにも相当時間がかかるのではないか。生産者も高齢化が進み、出品が難しくなったり、来場者も昔と比べると少なかった。

それでも継続していくことは大事だと感じている。

(平井委員長)

農業であれば、担い手や新規就農者の確保で人材確保につながると思うが、一番根底にあることは何か。

(上田委員)

やはり儲かるかどうかではないか。

(平井委員長)

その認知が広がることで変わることもあると思う。

工業分野も原案において人材確保が課題とあるが、その認識で良いか。また、何が必要と感じているか。

(上村委員)

働き方改革、運送業であればドライバーの問題、中小企業には人は集まらない、その状況下で賃上げをしていかなければならないといった厳しい状況にある。

大企業では賃上げという流れはあるが、中小零細、小規模事業者にとっては、人材確保の面では厳しくなっているように感じている。そこで機械化等ができればいいが、補助金等を含めて必要になっており、廃業の流れも出てしまっているのではないか。

(平井委員長)

補助金の審査にも携わっているが、補助金の申請・活用にも人材が必要である。

(上村委員)

商工会としても、できるだけ多く補助金のアナウンスができるように取り組んでいるところ。実際、商工会として市から補助金の事務委託を受けているところであり、PR できればと考えている。

(平井委員長)

これまでの議論では、人材確保の観点や、人材を活用するために情報発信をいかに効果的に行うかという議論がどの分野に限らず多くあった印象。実際に産業振興ビジョン（原案）においても、そのような記載が多く見られている。

それ以外にこの視点が重要というようなご意見はあるか。9 ページから 10 ページの課題の認識がこの内容で良いのか、12 ページからの基本方針、14 ページからの各分野の基本戦略、これらに基づいて取り組みが行われることになるので、それぞれ携わられている分野でお気づきの点があれば、お知らせいただきたい。

そのような記載がなくても全く問題のない周知の内容であると考えているが、どの分野に関してもこれからは SDGs という考えもあり、儲けることも大事だが、その地域にとってどうプラスになるか、加えて持続的にやっていくかという考え方もある。また、情報関係に関わっているため、人材確保が難しいときにいかに DX に取り組んでいくかということもある。

(松川委員)

商業では、顧客の数が減ると困るため、少子高齢化への対策は必要と感じている。産業振興ビジョンに基づいて産業を発展させることで、もっと人口を増やし、若い人が増える街にしていきたい。

(平井委員長)

高齢者の方もたくさんいらっしゃるが、ファミリー層であったり、どの層にどのようなものを提供していくかという考えもあるのでは。

大阪府では、大阪府が世界の中の大都市のなかでどのような位置にいるのか、データ分析を行っている。

(小泉委員)

外から質の良い働き手が来て、住み、そして働くということをめざした際に、都市の魅力の指標として SDGs や DX の視点は切り離せないもので、取り組んでいて当然という捉え方になると思う。産業振興ビジョン（原案）では、SDGs や DX の記載はないが、四條畷市総合計画の方に位置づけがされているということか。

(平井委員長)

言葉を並べるだけでなく、それを実際に活かしていくことが必要。仰るように、それが当たり前というような認識でも良いとは思う。

(事務局)

四條畷市総合計画が最上位計画であり、産業振興ビジョンは、四條畷市総合戦略とも整合・連動し、産業振興を推進するという位置づけである。

四條畷市総合計画ではないが、四條畷市総合戦略において、DXの推進やSDGsの理念を取り入れた持続可能なまちづくりの推進というキーワードを記載している。産業振興ビジョン（原案）では、直接的な記載はないが、連動する四條畷市総合戦略で記載がある状況。

(平井委員長)

授業でもDXにも関わる話題をよく取り上げるが、地に足のついた形で、自分たちの生活や仕事がそれによってどう変わるのか、というところを伝える必要があると感じている。DXというワードを入れるだけで済ますのではなく、具体的な内容でどう変えていくかということが重要になる。

(小泉委員)

情報発信という点でも、アプリひとつで解決できることも実はあるのではないかと。他市では、独自のアプリを開発しているところもある。プッシュ通知の設定をONにしておけば、例えばごみの情報など、自分が欲しい情報だけが配信されたり、アプリに入っているマップを見れば、お店を調べることができるなど、情報発信の基礎の部分に対応することもできる。

(成見委員)

大東市が作成した三好長慶のアプリを入れているが、飯盛山の頂上で使用すると、アプリがその場所の解説を行った。

(平井委員長)

今後は検索をする時代ではなくなり、現在地に応じた必要な情報を提案するようになると言われていて。

先日衝撃だったのは、2050年にはスマートフォンの普及率はゼロになる、それはすべて時計や眼鏡といったデバイスですべて済んでしまうとの報道があった。

(小泉委員)

恐らく将来的にはスマートフォンのリテラシーがないと使えないという状態ではなく、難しい操作を知らなくても意識せずに使えるという状態になるので、現在が一番操作に慣れていない方の負担が大きい過渡期なのでは。

(平井委員長)

その他、ご意見はあるか。

(上田委員)

基本方針5で「エコ河内田原米」の記載があるが、現在小麦の栽培に取り組んでいる。国内産小麦は貴重だが、小規模での製粉等が難しく、販売に課題がある。

(平井委員長)

四條畷は大きくない市域のため、制約がある一方で、小さいからこそできることもある。それを逆手に取った解決策があれば良いが。

(上田委員)

機械化については、ドローンでは使用する範囲が狭すぎるといった課題があるので、

傾斜地でも使用できる草刈り機を検討している。

(平井委員長)

過去は商業・工業・農業は別々というような印象もあったが、今は6次産業という考えもあり、むしろどちらの資源も活用できるという考えに変わっている。事実部分については、事務局にお伝えいただければ、記載方法の検討は可能なのでは。

(事務局)

産業振興ビジョン（原案）については、基本的な方針を示すものであるため、今後アクションプログラム等の取り組みで検討できればと考えている。

(平井委員長)

良いイベントができる予感がする。先ほどのSDGsやオーガニックという考えに反応する若い世代も多いので、若い力とつながることもひとつなのでは。

この産業振興ビジョン（原案）については、今後パブリックコメントにかけ、市民にお示ししていくこととなる。この原案を市民に示して良いかということが本日の着地点である。

ここでお諮りしたいが、産業振興ビジョン（原案）について、四條畷市産業振興ビジョン推進協議会として承認し、今後パブリックコメントの手続きを経ていくということによろしいか。

(全員)

異議なし。

(平井委員長)

私個人のお願いではあるが、以前の産業振興ビジョンのパブリックコメントを行った際、意見がゼロということがあった。意見の有無に関わらず、産業振興の取り組みを行っているということを市民に認知していただくことが非常に大切である。パブリックコメントの実施についての情報発信、周知についてもご協力いただきたい。

(事務局)

産業振興ビジョン（原案）について、先ほどご承認をいただいたところであるが、2ページのKPIの実績が分かりにくいというご意見もあったため、補足する注釈を追記させていただきたいと考えている。内容については、会議を開催する機会がないため、平井委員長と調整のうえ、修正後の産業振興ビジョン（原案）とさせていただきたいが良いか。

(全員)

異議なし。

(平井委員長)

事務局と相談のうえ、分かりやすい形で調整させていただく。

3 その他

(事務局)

今後のスケジュールの共有。

次回会議の日程調整。2月5日午後3時で決定。

(平井委員長)

今回の議事録につきましては、事務局が作成したものを皆さまに一度ご確認いただいた後、最終的に私に一任ということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(全員)

異議なし。

(平井委員長)

それでは、本日の会議はこれで終了といたします。長時間ありがとうございました。

以上